

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2277102394		
法人名	医療法人社団 愛寿会		
事業所名	グループホームあいの街芳川		
所在地	静岡県浜松市南区御給町263番地		
自己評価作成日	令和4年8月15日	評価結果市町村受理日	令和4年12月23日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.nhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_2016_022_kani=true&JigyosyoCd=2277102394-00&PrefCd=22&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構 静岡評価調査室		
所在地	静岡市葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A		
訪問調査日	令和4年8月31日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者様が入所されたその日からでもその方が心地良いと思っただけの様にアセスメントを職員全員の共通認識としてしっかりと行っています。その上で職員一人一人が自分達は入居者皆様方にどうしたら寄り添う介護が出来るのか?をカンファレンスや社内研修等で日々研鑽を重ねています。入居者様が喜んでいただける事は何なのか?それを実現するにはどうすれば良いのか?色々なアイデアを出し実行する力を伸ばし育てる雰囲気作りを事業所として取り組んでいます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

途中で法人の交替はあったものの開設から18年(前身からだ26年)と地域に深く根ざした事業所です。運営推進会議の議事録には行政、地域からのメンバーの率直な意見が綴られ、情さえ滲みます。特に前回までの自治会長は親身な関わりで、事業所の隣に大きな建物が建つ際には「駐車場はグループホーム側はやめてほしい」とかけ合ってくださるなど、親戚や家族のような存在で事業所としても大変頼りにしていました。コロナ禍にあっても「できることをしよう」と、手先の器用な職員がペットボトルの蓋でパズルをつくり、ホットプレートでクレープを焼いたり、手作りの歌集でのご自慢したりと、一人ひとりの小さな楽しみを実現させています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	入所時に事業所理念を伝えており月1回のカンファレンス及び日々のミーティング等で確認・共有している	理念は創業者がつくったものです。毎月のカンファレンスをはじめ毎日おこなう申し送りなど、職員と顔を合わせる機会には管理者から理念に係る事柄を話しており、身近に存在しています。	職員は理解しているようですが、今後は個人目標に落とし込むなど、どの程度実践できているかを計ることを期待します。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	自治会に加入しておりコロナ禍以前は夏祭り・秋祭り等で地域との会話・交流を持つよう日々心掛けていた。コロナ禍においても本事業所として依頼があれば地域に包み隠さず情報を公開している。	現在は散歩での挨拶程度に留まっていますが、事業所にああしてほしい、こうしてといった日常的な要望は運営推進会議を通して自治会から届いていて、今後の関係構築のためにも速やかに解決させてします。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方からの相談には様々な介護サービスについての説明をきめ細やかに分かり易く行っています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	サービス向上には会議で出してもらった意見を繋げていく様努めています。地域との防災での協力体制を保ち共通認識を深めています。	コロナ禍で運営推進会議の参加ができたり、できなかったり、状況に左右されてはいますが、書面開催になったときには意見を収受するシートを封入していることから、双方向のコミュニケーションを大切にしているのが伝わります。	運営推進会議のデータに「ヒヤリハット」「事故報告」「行事報告」などのデータのほか、行事や外出時の写真(家族の了承が難しいなら文章で説明が欲しい)掲載があることを期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	空室状況の提供・入居に関しての相談には電話での丁寧な説明と施設のパンフレット送付をさせて頂いている。	浜松市の配信メールの確認のほか、抗原キット検査も週1回洩れなく実施しています。地域包括支援センターからの空室照会はないものの、地域の居宅介護支援事業所との関係が良好で、入居の問い合わせが続いています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	スタッフには終始一貫して身体拘束廃止の意味と理念を研修等で徹底的に教育し実践を心掛ける様指導している。入居者御家族様には入居時の契約の際に説明を行っている。	委員会は運営推進会議終了後の開催としていて、3ヶ月に1度の開催でよいところを、隔月開催としています。年2回の研修や新人職員の研修では一人ひとりの職員のレポートが作成されるとともに、管理者がコメントを入れていて丁寧な取組みが見られます。	委員会は法令に定められ実施義務がともなうもののため、構成メンバー(委員)とオブザーブ出席者の記載を明瞭にするなど、運営方法について整備することを期待します。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	新聞報道や他施設でのケース等を参考にしスタッフ間での言葉遣いや行動を相互に注意を払う環境づくりを心掛けています。それは毎月行われる研修の中でも取り入れられている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	月1回の内部研修で学ぶ機会を設けている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の署名は十分な時間を取り説明をし理解を得られてから頂いています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	必要に応じて入居者様からの御意見御希望に関して会議の場で話し合いの機会を持ちます。御家族様には面会・行事の際に個別での相談で御意見を頂きます。意見箱も設置しております。	窓越し面会はコロナの状況によって変更があります。内容については法人本部で手順を踏んで取り決められていることから家族も従ってくださいますが、その変更の知らせの発信がまちまちで一斉とはなっていないことは課題です。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回のカンファレンスや日々のミーティングの場で忌憚のない意見を聞き要望をまとめ自医療法人事務長に伝えます。	気づきとともにアサーションが強く、はっきり言える職員もいますが、一方で内気で口数が少ない人もいて、話し合いの場での発言力に格差が生じやすいため、管理者が質問など投げかけてなるべく発信してもらえよう配慮しています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は職員が健康的で日々向上心を持ち働ける様職場環境・条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の技能レベルや経験年数に応じた研修を受ける機会を設け個人個人の介護の質・レベルの向上に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	施設外での研修や他施設での行事に積極的に参加することで交流し刺激を多く受ける機会を設けている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	不安で落ち着かないケースは入居直後非常に多いので御本人のお話に傾聴・共感する時間を多く持ち御家族を含め安心して生活が出来る環境を作る様努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	しっかりと話を聞きアセスメントを入居前の相談時にする事で入居後の方向性を話し合い信頼関係を築いている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	何が本当に必要な支援なのかを御家族・御本人との話し合いで見極めて対応する様にしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	「共に生活をする」と言う事を常に考え職員と出来る事は積極的にして頂く様に努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナ禍においても入居後も他科受診による外出や規制内での面会時に入居者様の日々の様子を詳しくお伝えし「あいの街通信」という広報誌で暮らしの様子を見える化する事で常に共に支援するという関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	御本人に馴染みのや思い入れの有る品を入居時に持ってきて頂く様お願いしている。 御本人からの希望が有れば現状許される範囲での外出も御家族にお願いする事もある。	面会はケースバイケースですが、家族には会えるようにしています。趣味らしいものを続ける人はいませんが、珈琲を愛飲してきた人には好みの甘味量で調整して提供しています。音楽が好きな人にはリビングで唱歌を流し、興にのれば歌ってくださることもあります。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	年齢・趣味等利用者様同士の関係性を把握しその時々に必要な応じた対応で職員は中立を守りつつ間に入り傾聴しそれぞれを孤立させない支援に努めている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も介護サービスでの疑問・相談も受け付けその方のお知り合いの入居の相談を受ける準備がある事をお伝えしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	御本人の希望をケアプラン作成時に確認し変更があれば都度更新する様にしている。	職員が実践者研修を受けたときには宿題のセンター方式に取組んだこともありますが、普段特にこれといったツールは使わず、職員の傾聴力に頼っています。風呂場や夜間皆が寝静まった時間など1対1となれる場を活用しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	御本人・御家族・ケアマネージャー等より入居の際に過去の生活歴や嗜好、他サービスでの様子を確認している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	経過記録・生活管理表に日々の様子を忠実に記録し個々の心身の状態の変化を確認している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	御本人の希望を第一にケアのあり方と考へ御家族の意向も踏まえ現状を考へて御本人がより安心して暮らしていく為の介護計画を作成している。	法改正で本件について2ユニットを1名で担当してよいとなったため、当事業所でも勤務の長い介護支援専門員(計作資格あり)に一任していません。サービス種別(担当者)欄に家族や自治会、ボランティアの名前も上がって、地域密着型の王道をゆく計画書です。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	カンファレンスやミーティングの場で日々の様子やケアの実践結果は経過記録に記録したもので情報の共有を図っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	常に御本人の身体状況や御家族の状況を考えグループホーム以外との連携も検討します。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	個人生活を支えている地域資源の把握に努め毎日の生活を楽しんで頂ける様にしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医の確認は入居時にし最善で適切な医療を受けられる支援をしている。	系列の病院から医師が月2回来所のうえ、訪問診療をおこなっています。同法人の訪問看護事業所から週3回看護師の来訪もあり、看護師が勤務日を医師の来所と合わせて職員とともに立ちあい、本人の状態を適切に共有しています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週3回の訪問看護で介護職が入居者様の些細な体調変化や気になる事を連絡・相談が出来る事で目の行き届いたサービスを心掛けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	総合病院等への連携が主治医を通じて円滑に取れている。入院時には病院関係者と面会の際に情報の交換をしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期についての説明は入居時にしている。医師・看護師・管理者・ケアマネで状況に応じ話し合い御家族の意向を第一に施設で出来る範囲の支援をしている。	食欲が減退したり、飲み込みがわるくなるなど重度化への進行がみられたときは、医師の所見を仰ぎ、家族と今後のことを相談のうえ、家族の決定に従い支援しています。また家族が検討しやすくなるように、これまでのケース例を話すこともあります。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時のマニュアルを使って急変時の対応方法を確認している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	日中・夜間での避難訓練の実施や点検業者・消防署と連携しての通報訓練、消化器等の設備の取り扱いの指導を職員に行っている。	年2回の法定訓練を欠かさず実施のほか、緊急時の対応などの勉強会もおこない、今後はAEDについても企画しています。また防災機器業者には取扱い説明のレクチャーをお願いしており、毎回快く引き受けてもらっています。	防災マニュアルの見直しをおこなうとともに、BCPの整備及び、感染症対策の訓練プログラムの作成が進むことを期待します。

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	様々な経験をされた人生の先輩であられる入居者様に対し尊厳を重んじ失礼の無い発言、声掛けを心掛けている。	居室やトイレの扉のノックや声掛け、「～さん」との呼称など、最低限のマナーやエチケットは守られています。またうっかり出てしまう、移動時の「せーの」といった言葉は管理者や介護支援専門員がその場で注意しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員が日中の会話の中から希望をお聞きし気持ちを汲み取りそれに寄り添う援助を心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者様の個性を考え各々が「楽しい」と思ってもらえる事はが何なのか？を考えて支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	基本的に御本人が希望する服を選んでいただいている。受診等で外出時にはお気に入りの帽子やバッグを使用して頂き入居者様個人の好みを尊重している。希望されれば居室に化粧品を置き整容される事もある。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	最低限の食事介助とし介助の際はしっかりと嚥下等見守りを行い食体に応じた箸・スプーンを使用して御自分で食べられる環境作りを努めている。	調理済みの献立がチルドパックで届いており、衛生面と栄養バランスは確かです。椅子の高さなどにも気遣い、月2回の歯科医師の訪問診療を通じて口腔ケアが推進され、飲み込みについてもチェックと見守りがあります。	つくる喜びやニオイやシズルの感覚が味わえるよう調理レクの日を増やしたり、(外食ができないので)出前やテイクアウトなどで非日常があることを期待します。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎月の体重測定にて体重の増減を把握し個人の健康状態は毎日の生活管理表で食事量・水分量に記し確認出来き量を確保している。食事形態も個人に合わせ摂取出来る環境作りをしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	月2回の訪問歯科の往診がある。日常は歯磨きや嗽、洗浄剤を使用した義歯の洗浄、口腔スポンジでのケア等個人の能力に対応したケアを毎食後行っている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	出来る限り日中は介護が必要な方でもその方の排泄パターンを把握する事でトイレでの排泄援助をしている。入居様が快適と感じて頂ける様夜間帯はオムツを使用されている方でも日中は排尿・排便をトイレで出来る様に促して上手くいっている。	立ち上がりの訓練も兼ねているとの考えもあり、またさまざまな感覚・意識、そして動作が複雑に絡み合っ成り立つ排泄行動は生活そのもののリハビリとして大切に考えており、日中は2人介助となっても「なるべくトイレで」を励行しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	下剤になるべく頼らず水分摂取を促したりヨーグルトを食べて頂いたり寒天ゼリーを職員が手作りにして提供する等工夫して便秘の予防に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日を記録し週2,3回入浴して頂いている。入浴時間も決まりごとは無く御本人の御希望に沿える様な支援をしている。	週2.5回程入浴できるように工夫しており、法定にプラス0.5で湯に浸かる喜びを味わう機会を増やすよう努めています。また入浴時の着脱着衣の折に、傷などないか全身観察をおこない、職員同士で情報共有するとともに看護師とも連携して対応しています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は疲れが見られたら休憩時間をとり夜間帯はエアコン・加湿器で室温等をこまめに調整し掛布団・毛布で体感を調整している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書を使用し薬効・用途の理解に努め看護師より服用時の作用と注意点を説明をしてその重要性を落とし込んでいる。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物のたたみや食事前の体操での号令等それぞれの能力が発揮できる環境整備にて「役割」をお願いしている。歌がお好きな方は居室にてイヤホンで楽しまれている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	御本人からの希望に応じ御家族の協力も得て出掛けられる環境を整備している。又、個人個人の好みに応じ職員が近隣への公用車でのドライブも行っている。	遠方や人混みは無理なため、シャボン玉を庭先で飛ばしたり、手持ち花火を愛でたりと、事業所の敷地内で過ごすメニューを職員が考えて提供しています。職員が並んで近くの小道を散歩したり、降りないドライブで季節の変わり目を楽しむ日もあります。	

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お買い物に出掛けた折には支払いをなるべく御本人にさせていただいている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は基本的には事務所の物を使用して頂くが携帯電話の所有も認められており自由な会話が見られる。又ハガキや便箋の購入の希望があれば購入している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングや玄関に季節の草花を飾ったり施設内の節句の飾りで春夏秋冬を感じて頂ける様工夫をしている。生け花をして楽しむ事もある。	換気は1日中おこなっています。早番と遅番がそれぞれコンタクトポイントを中心に消毒を含む掃除をし、特にトイレは利用者がつかった後もしっかり拭き掃除を施しています。また、異食の症状の人はいないため、共用空間には生花を活けることができています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関には長椅子を置きプランターの季節の花々を鑑賞しながらリビングにはソファを置き入居者様同士でのコミュニケーションを取る事が出来る環境を作っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際には御自宅で愛着のあった家具や趣味の物、御家族と一緒に映した写真を貼ったアルバム等をお持ち頂く様にお願いしている。最近では好きなCDを持って来られる事も多い	コロナ禍以前にも家族の写真を飾る居室はありましたが、会える頻度や会話が減ってしまい、家族の写真は益々貴重です。日中臥床で過ごす利用者は立ち上がり不安定なため、つかまり立ちできるよう工夫するなど、配置や動線は職員が常に気にかけています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	通路両側に手すりを配置し歩行に不安がある入居者様が安心して移動出来る。車イスでもトイレ使用後にペーパータオルが使用し易い位置の壁に取り付ける等の対応をしている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2277102394		
法人名	医療法人社団 愛寿会		
事業所名	グループホームあいの街芳川		
所在地	静岡県浜松市南区御給町263番地		
自己評価作成日	令和4年8月15日	評価結果市町村受理日	令和4年12月23日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.nhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_2016_022_kami=true&JigyosyoCd=2277102394-00&PrefCd=22&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構 静岡評価調査室		
所在地	静岡市葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A		
訪問調査日	令和4年8月31日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者様が入所されたその日からでもその方が心地良いと思っただけにアセスメントを職員全員の共通認識としてしっかりと行っています。その上で職員一人一人が自分達は入居者皆様方にどうしたら寄り添う介護が出来るのか?をカンファレンスや社内研修等で日々研鑽を重ねています。入居者様が喜んでいただける事は何なのか?それを実現するにはどうすれば良いのか?色々なアイデアを出し実行する力を伸ばし育てる雰囲気作りを事業所として取り組んでいます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

途中で法人の交替はあったものの開設から18年(前身からだ26年)と地域に深く根ざした事業所です。運営推進会議の議事録には行政、地域からのメンバーの率直な意見が綴られ、情さえ滲みます。特に前回までの自治会長は親身な関わりで、事業所の隣に大きな建物が建つ際には「駐車場はグループホーム側はやめてほしい」とかけ合ってくださるなど、親戚や家族のような存在で事業所としても大変頼りにしていました。コロナ禍にあっても「できることをしよう」と、手先の器用な職員がペットボトルの蓋でパズルをつくり、ホットプレートでクレープを焼いたり、手作りの歌集でのご自慢したりと、一人ひとりの小さな楽しみを実現させています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	入所時に事業所理念を伝えており月1回のカンファレンス及び日々のミーティング等で確認・共有している		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	自治会に加入しておりコロナ禍以前は夏祭り・秋祭り等で地域との会話・交流を持つよう日々心掛けていた。コロナ禍においても本事業所として依頼があれば地域に包み隠さず情報を公開している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方からの相談には様々な介護サービスについての説明をきめ細やかに分かり易く行っています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	サービス向上には会議で出してもらった意見を繋げていく様努めています。地域との防災での協力体制を保ち共通認識を深めています。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	空室状況の提供・入居に関しての相談には電話での丁寧な説明と施設のパンフレット送付をさせて頂いている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	スタッフには終始一貫して身体拘束廃止の意味と理念を研修等で徹底的に教育し実践を心掛ける様指導している。入居者御家族様には入居時の契約の際に説明を行っている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	新聞報道や他施設でのケース等を参考にしスタッフ間での言葉遣いや行動を相互に注意を払う環境づくりを心掛けています。それは毎月行われる研修の中でも取り入れられている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	月1回の内部研修で学ぶ機会を設けている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の署名は十分な時間を取り説明をし理解を得られてから頂いています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	必要に応じて入居者様からの御意見御希望に関して会議の場で話し合いの機会を持ちます。御家族様には面会・行事の際に個別での相談で御意見を頂きます。意見箱も設置しております。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回のカンファレンスや日々のミーティングの場で忌憚のない意見を聞き要望をまとめ自医療法人事務長に伝えます。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は職員が健康的で日々向上心を持ち働ける様職場環境・条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の技能レベルや経験年数に応じた研修を受ける機会を設け個人個人の介護の質・レベルの向上に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	施設外での研修や他施設での行事に積極的に参加することで交流し刺激を多く受ける機会を設けている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	不安で落ち着かないケースは入居直後非常に多いので御本人のお話に傾聴・共感する時間を多く持ち御家族を含め安心して生活が出来る環境を作る様努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	しっかりとお話を聞きアセスメントを入居前の相談時にする事で入居後の方向性を話し合い信頼関係を築いている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	何が本当に必要な支援なのかを御家族・御本人との話し合いで見極めて対応する様にしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	「共に生活をする」と言う事を常に考え職員と出来る事は積極的にして頂く様に努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナ禍においても入居後も他科受診による外出や規制内での面会時に入居者様の日々の様子を詳しくお伝えし「あいの街通信」という広報誌で暮らしの様子を見える化する事で常に共に支援するという関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	御本人に馴染みのや思い入れの有る品を入居時に持ってきて頂く様お願いしている。 御本人からの希望が有れば現状許される範囲での外出も御家族にお願いする事もある。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	年齢・趣味等利用者様同士の関係性を把握しその時々に必要な応じた対応で職員は中立を守りつつ間に入り傾聴しそれぞれを孤立させない支援に努めている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も介護サービスでの疑問・相談も受け付けその方のお知り合いの入居の相談を受ける準備がある事をお伝えしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	御本人の希望をケアプラン作成時に確認し変更が有れば都度更新する様にしている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	御本人・御家族・ケアマネージャー等より入居の際に過去の生活歴や嗜好、他サービスでの様子を確認している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	経過記録・生活管理表に日々の様子を忠実に記録し個々の心身の状態の変化を確認している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	御本人の希望を第一にケアのあり方と考え御家族の意向も踏まえ現状を考えて御本人がより安心して暮らしていく為の介護計画を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	カンファレンスやミーティングの場で日々の様子やケアの実践結果は経過記録に記録したもので情報の共有を図っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	常に御本人の身体状況や御家族の状況を考えグループホーム以外との連携も検討します。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	個人生活を支えている地域資源の把握に努め毎日の生活を楽しんで頂ける様にしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医の確認は入居時にし最善で適切な医療を受けられる支援をしている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週3回の訪問看護で介護職が入居者様の些細な体調変化や気になる事を連絡・相談が出来る事で目の行き届いたサービスを心掛けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	総合病院等への連携が主治医を通じて円滑に取れている。入院時には病院関係者と面会の際に情報の交換をしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期についての説明は入居時にしている。医師・看護師・管理者・ケアマネで状況に応じ話し合い御家族の意向を第一に施設で出来る範囲の支援をしている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時のマニュアルを使って急変時の対応方法を確認している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	日中・夜間での避難訓練の実施や点検業者・消防署と連携しての通報訓練、消化器等の設備の取り扱いの指導を職員に行っている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	様々な経験をされた人生の先輩であられる入居者様に対し尊厳を重んじ失礼の無い発言、声掛けを心掛けている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員が日中の会話の中から希望をお聞きし気持ちを汲み取りそれに寄り添う援助を心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者様の個性を考え各々が「楽しい」と思ってもらえる事はが何なのか？を考えて支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	基本的に御本人が希望する服を選んでいただいている。受診等で外出時にはお気に入りの帽子やバッグを使用して頂き入居者様個人の好みを尊重している。希望されれば居室に化粧品を置き整容される事もある。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	最低限の食事介助とし介助の際はしっかりと嚥下等見守りを行い食体に応じた箸・スプーンを使用して御自分で食べられる環境作りに努めている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎月の体重測定にて体重の増減を把握し個人の健康状態は毎日の生活管理表で食事量・水分量に記し確認出来き量を確保している。食事形態も個人に合わせ摂取出来る環境作りをしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	月2回の訪問歯科の往診がある。日常は歯磨きや嗽、洗浄剤を使用した義歯の洗浄、口腔スポンジでのケア等個人の能力に対応したケアを毎食後行っている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	出来る限り日中は介護が必要な方でもその方の排泄パターンを把握する事でトイレでの排泄援助をしている。入居様が快適と感じて頂ける様夜間帯はオムツを使用されている方でも日中は排尿・排便をトイレで出来る様に促して上手くいっている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	下剤になるべく頼らず水分摂取を促したりヨーグルトを食べて頂いたり寒天ゼリーを職員が手作りにして提供する等工夫して便秘の予防に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日を記録し週2,3回入浴して頂いている。入浴時間も決まりごととは無く御本人の御希望に沿える様な支援をしている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は疲れが見られたら休憩時間をとり夜間帯はエアコン・加湿器で室温等をこまめに調整し掛布団・毛布で体感を調整している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書を使用し薬効・用途の理解に努め看護師より服用時の作用と注意点を説明をしてその重要性を落とし込んでいる。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物のたたみや食事前の体操での号令等それぞれの能力が発揮できる環境整備にて「役割」をお願いしている。歌がお好きな方は居室にてイヤホンで楽しまれている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	御本人からの希望に応じ御家族の協力も得て出掛けられる環境を整備している。又、個人個人の好みに応じ職員が近隣への公用車でのドライブも行っている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お買い物に出掛けた折には支払いをなるべく御本人にさせていただいている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は基本的には事務所の物を使用して頂くが携帯電話の所有も認められており自由な会話が見られる。又ハガキや便箋の購入の希望があれば購入している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングや玄関に季節の草花を飾ったり施設内の節句の飾りで春夏秋冬を感じて頂ける様工夫をしている。生け花をして楽しむ事もある。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関には長椅子を置きプランターの季節の花々を鑑賞しながらリビングにはソファを置き入居者様同士でのコミュニケーションを取る事が出来る環境を作っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際には御自宅で愛着のあった家具や趣味の物、御家族と一緒に映した写真を貼ったアルバム等をお持ち頂く様に願っている。最近では好きなCDを持って来られる事も多い		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	通路両側に手すりを配置し歩行に不安がある入居者様が安心して移動出来る。車イスでもトイレ使用後にペーパータオルが使用し易い位置の壁に取り付ける等の対応をしている。		